

1. 本町における令和4年度のイベント開催の方向性を問う

昨年度と今年度は、多くの事業が中止や縮小開催となった。

ワクチン接種が進み、経口薬の開発が進むなかで、今後の様々なイベントの在り方を考えるべきである。

特に来年度はあじさいまつり・阿波おどり共に35回記念大会という節目の年であり、大きな方向性を打ち出す絶好の機会と考える。

このタイミングを活かし、これまでの集客数に拘る取組みから、開成町の魅力や環境問題への姿勢を強く打ち出し、SDGs やサステナブルをキーワードにした取組みへと方向転換すべきと考えるが、町の見解を問う。

2. こどもの権利擁護の取組みについて問う

コロナ禍において、大人と比べ順応性の高い子どもたちは、新しい日常を受け入れ、従順にルールを守ろうとしている。

しかし楽しみにしていたことや好きなことを奪われた悔しさや喪失感は、確実に内面に蓄積しているのではないか。

1年半以上に渡りこういった状況が続くなかで、改めて子どもたちに寄り添い、子どもたちの権利について再考すべき時期と考え、本町においての子どもの権利擁護に対する現状の取組みと課題を問う。